品質は語る……
白松がモナカ本舗

漱石羊羹

数量限定

漱石の好んだ
ピーナッツと紅茶。
二つの味を漱石の
好物だった羊羹に。

販売価格
1,450円

紅茶

ピーナッツ
落花生

販売場所：三越、藤崎、エスパル、仙台駅おみやげ処1号2号店、
一部直営店（駅前店・一番町店・中央店・晩翠通店・大学病院前店）

※表示価格は消費税込みです。直営店にてご用命をお待ち申し上げております。

漱石生誕150年 仙台と夏目漱石

漱石の蔵書のほとんどは東北大図書館にある

戦火が激しくなった昭和19年、明治の文豪夏目漱石（1867～1916）の貴重な蔵書や日記、手帳など約3,000点が、東京の「漱石山房」から仙台の東北大学に移されました。これらの資料は「漱石文庫」と名付けられ、漱石研究に役立てられています。生誕150年の今年、東北大学附属図書館と白松がモナカ本舗ではこれを記念し漱石に関わるコラムを連載します。

夏目漱石
【慶応3年(1867)～大正5年(1916)】

高校野球大会が始まった年、漱石センセイも野球観戦するの巻

漱石センセイを巡る物語　―その⑥―

「森が来て、早稲田の野球試合に誘ひ出す。戸塚のグラウンドを望むと人と雲が一ぱいに層をなして広い原を取り囲んでいる••」。

漱石には、こんな書き出しで始まる、800字ほどの短い野球観戦記があります。亡くなる前年の大正4（1915）年に書かれたもので、この時漱石48歳。観戦したのは5月16日、早稲田対第一高等学校（旧制一高）の試合でした。

「場内は人で埋まっているので、どこが入り口かまるでわからない」とあり、人気のほどが伺えます。

漱石を誘った森というのは、漱石より10歳年下で、当時一高教授だった森巻吉（もり・けんきち）。東京帝国大学で英文学を学んだ、漱石の教え子でした。一塁側が早稲田、三塁側が一高。もちろんふたりは、三塁側で母校の一高を応援していました。と言っても、熱のこもった応援を冷静に観察しています。

「一高はサードベースの側を一杯占領していた。その数は千人位もあろう。皆白い旗を持ってそれを一度に動かす目がちらちらする。自分の頭の上に居る男が比較的大きな旗を持っていてそれを夢中で振ると旗の端がぴたりぴたりと自分の頭や頬にあたる。一斉に立って怒鳴ると砂ほこりが立つ」。

漱石センセイ、少々迷惑そうですね。残念ながら試合は10対5で一高の負け。

「白軍は急に大嵐のあとのやうに静まった。千人の人が一人も口を聞かなかった」

野球観戦記と言っても、試合内容には全く触れておらず、興味の対象はもっぱら観戦する人々の姿だったようです。戸塚のグラウンドは、漱石が住んでいた新宿区南町からほど近く、森巻吉は病気がちだった漱石の気分転換にでもと、誘ったのかもしれません。

※イメージ

日本に野球が伝えられたのは、明治のはじめですが、やがて一高をはじめとした、中学校や高等学校で広まって行きます。漱石も一高時代に多少はたしなんだようで、作品にはしばしばベースボールが登場します。

「吾輩はベースボールが何物たるを解せぬ文盲漢である。然し聞く所によれば是は米国から輸入された遊戯で、今日中学程度以上の学校に行はるる運動のうちで尤も流行するものだそうだ」（吾輩は猫である）

野球人気が世間にも及ぶのは明治の終わり頃からで、この年大正4（1915）年に、第1回全国中等学校優勝野球大会が開催されました。現在の、全国高校野球選手権大会、いわゆる夏の甲子園大会の前身です。もっとも、甲子園球場はまだできていませんが。

今に続く「夏の高校野球」が始まった年、漱石も球場に足を運んで、野球に熱狂する人たちの中に身を置いていたんですね。

おじいちゃん・おばあちゃん
いつもありがとう

9月18日(祝)は
敬老の日

販売期間／9月17日(日)・18日(祝)の2日間

上生菓子で敬老の日
「敬老／鶴亀」

数量限定

1函4個入　680円

※表示価格は消費税込みです。
直営店にてご用命をお待ち申し上げております。

君菓
白松がモナカ
白松がヨーカン

モナカ・ヨーカンの全国発送を承ります。0120-008-940 ※受付時間は8:00～17:00となっております。ホームページでも承っております。http://www.monaka.jp/ 白松がモナカ本舗　本社　仙台市青葉区大町二丁目8-23